



高速横浜環状北線埋蔵文化財 発掘調査（新羽地区）

にっぽせんげんじんじゃ 新羽浅間神社遺跡 (横浜市港北区No.247 遺跡)

弥生後期の竪穴住居址を発見！

新羽浅間神社遺跡の発掘調査

横浜市港北区に所在する新羽浅間神社遺跡は、首都高速道路株式会社による高速横浜環状北線の建設に伴う埋蔵文化財の記録保存として発掘調査を実施しています。

遺跡は横浜市営地下鉄北新横浜駅から南西に10分ほど歩いたところにあり、鶴見川の左岸に立地しています。遺跡の標高は最も高いところで約22m、低いところでは約10m、比高差は約12mです。

調査の結果、縄文時代の集石や弥生時代中期初頭の土器棺墓、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴住居址や古墳時代後期の横穴墓などが発見されています。縄文土器では中期の五領ヶ台式土器や晚期の安行式土器、弥生土器、土師器、須恵器などの遺物が出土しています。

中でも注目すべきは、弥生時代中期初頭の土器棺墓です。この時期の弥生墓は神奈川県内でも類例が少なく、重要な事例と言えるでしょう。

発見された遺構や遺物などは、今後の出土品整理や分析を経て、発掘調査報告書として刊行し、正式に公開されます。

今回の調査で得られた先人達の足跡がここ、新羽町の郷土の歴史を探る資料として活用していただければ幸いです。



**公益財団法人
かながわ考古学財団**



空から見た新羽浅間神社遺跡（南方向から撮影）

新羽浅間神社遺跡には、「亀甲山」と呼ばれる丘陵部分も含まれています。亀甲山は、室町時代の武将である太田道灌とゆかりのある場所です。新羽浅間神社遺跡から鶴見川をはさんだ対岸には15世紀中頃に築かれたとされる小机城があり、太田道灌が小机城を攻める際に陣を敷いた場所が亀甲山だと言われています。およそ2ヶ月間の攻防を繰り返したのちに、太田道灌は小机城を攻め落とすことに成功したそうです。

【調査の概要】

◇遺跡名 新羽浅間神社遺跡（横浜市港北区No.247 遺跡） ◇所在地 横浜市港北区新羽町

◇調査期間 2012年2月1日～7月31日

◇発見された遺構 [2012年6月1日現在] 近世以降：土坑11基・硬化面1箇所

古墳時代後期：横穴墓5基

弥生時代後期～古墳時代前期：竪穴住居址4軒

弥生時代中期：土器棺墓1基 縄文時代：集石2基

◇出土した遺物 [2012年6月1日現在] 近世以降：陶磁器・瓦・銭 奈良・平安時代：土師器

古墳時代：土師器・須恵器

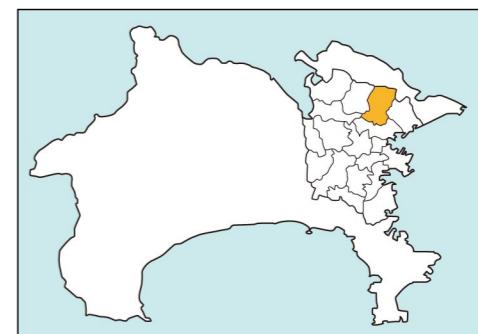
弥生時代：弥生土器

縄文時代：縄文土器・石器

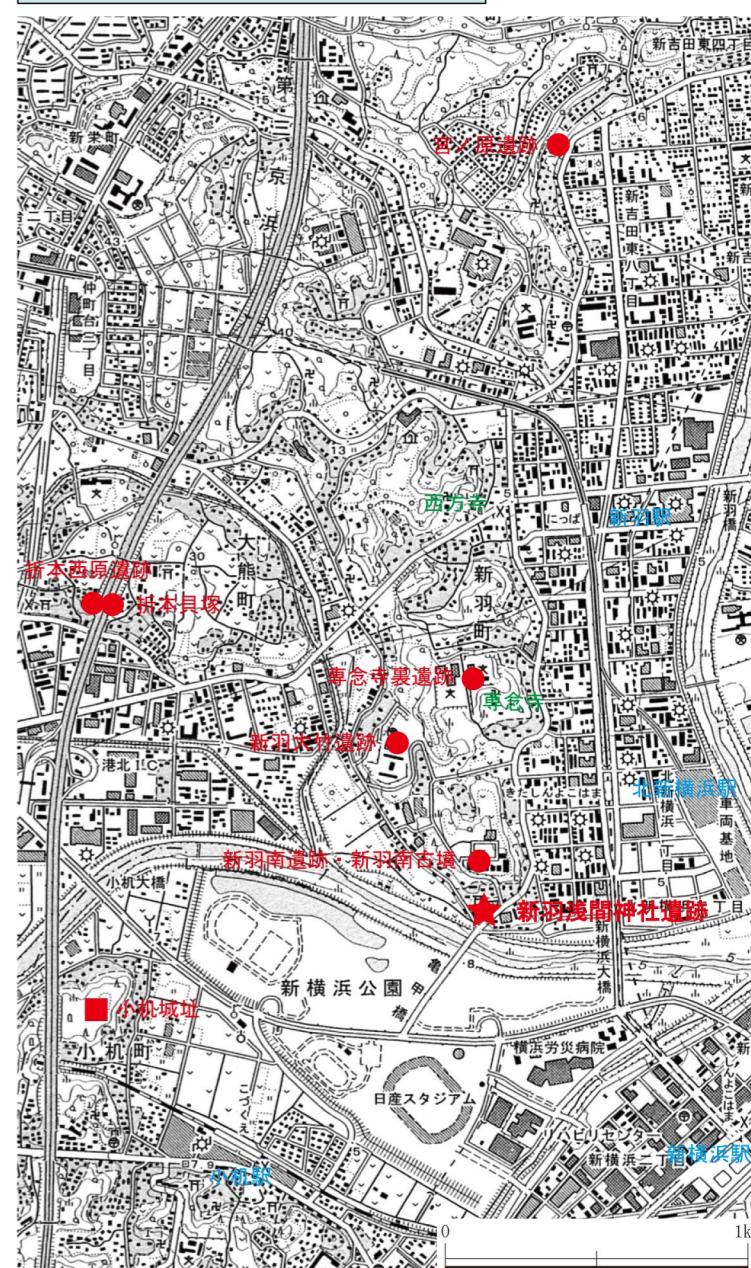


※矢印は、今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示しています。

※調査の内容は調査時点のものであり、今後の調査成果や出土品等整理などにより評価を変える場合があります。



黄色：横浜市港北区
遺跡は港北区の南、都筑区に近い位置にあります。



周辺の主な遺跡

国土地理院 1/25,000 地形図「荏田」を使用。

考古学財団 高速横浜環状北線埋蔵文化財発掘調査
(新羽地区)

新羽浅間神社遺跡発掘現場見学会資料

2012(平成24)年6月16日

公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町3-191-1

Tel: 045-252-8689 Fax: 045-261-8162

HP: <http://kaf.or.jp>